



平成28年度
6月1日発行
下府中保育園

これからの季節、紫外線から子どもを守りましょう。

紫外線は長時間浴びると日焼けして肌を痛めます。また、遺伝子を傷つけたり、免疫力が低下したりします。海水浴、戸外でスポーツをする時などは、紫外線対策をしっかりしましょう。紫外線は7~8月がピークとなります。

戸外に出る時の注意

- つばの広い帽子をかぶる
- 日陰を選んで歩く
- 袖のある衣類を着る
- 日焼け止めを上手に使う

夏に多い感染症

これからの季節に流行りやすい病気があります。早期発見に努め、流行を未然に防ぎましょう。

〔ヘルパンギーナ〕

症状 のどや口の中に小さな口内炎が点々とでき、物を飲み込む時にとても痛がります。40℃近い高熱が出ることもあります。

対応 熱が下がり、食事を普通に取れるようになれば登園OKです。ウイルスは便を通して2~4週間排泄されるので、オムツ交換や排便後の取り扱い、手洗いなどには十分な注意が必要です。

〔手足口病〕

症状 手足口病の水ほうは皮膚の深い所にでき破れにくい。化膿するとかゆくなります。口の中には周囲が赤い小さな口内炎が次々とできる。38.5℃くらいの熱が2~3日続くこともあります。大人が感染すると子どもより症状が重くなりやすいので注意が必要です。

対応 手足口すべてに症状が出るとは限りません。エンテロウイルスが原因の場合は、髄膜炎になることがあるので注意が必要です。症状が始まって2~4週間は便を通してウイルスが排泄されるので、オムツを変えたあとは注意しましょう。

〔プール熱（咽頭結膜熱）〕

症状 アデノウイルスによる感染症。39℃以上の高熱が出て、のどの痛みとはれ、目やにが出たり白目の部分が赤く充血するなど結膜炎の症状が見られます。頭痛、食欲不振、下痢などを伴うこともあります。

対応 目の症状がひどい場合は眼科での治療が必要です。症状がなくなってから2日経過するまでは出席停止です。症状が治っても体の中にはまだウイルスがいるので、タオル、コップなどの共用は避けましょう。

〔とびひ（伝染性膿痂症）〕

症状 かき壊した虫刺されなどの周りに小さな水ぼうしが出て、さらにその周りが赤くなっています。水ぼうしは次第に膿んで簡単に破れます。水ぼうしの中の液や浸出液によってその周囲へと増え広がっていきます。

対応 抗生剤を服用したり、患部に塗ったりする必要があります。包帯などで患部を完全に覆ってあげれば感染の機会は減ります。皮膚がじくじくしている間は他の子に感染したり、本人の症状も悪化する場合があります。